

平成30年度 第1回小樽市人口対策会議 概要

- ・日 時 平成30年11月27日（火）午後3時00分～5時30分
- ・場 所 市役所本館2階 市長応接室
- ・出席者 鈴木座長、中村委員、樋口委員、前田委員、佐林委員、高橋委員、小倉委員、織田委員、平川委員、松並委員、永田委員、片岡委員、杉本委員、乾委員、鈴木委員
- ・事務局 総務部企画政策室長、企画政策室主幹、企画政策室主査

事務局 <開会宣言>
<市長から委嘱状を交付>

(委嘱状の交付)

市 長 <市長挨拶>

事務局 <「小樽市人口対策会議設置要綱」第4条第1項に基づき、市長から座長を指名>

市 長 <公平公正の観点から、学識経験者であり昨年度も本会議の座長を務められた、小樽商科大学の鈴木副学長を指名>

鈴木座長 <座長挨拶>

(市長退席)

鈴木座長 <初めての委員も多いことから、会議を始める前に自己紹介を求める>

各 委 員 <自己紹介>

鈴木座長 <会議の進め方について、事務局から説明を求める>

事務局 会議は昨年に引き続き公開とし、会議資料と概要は市ホームページで公表する。
本会議での議論は庁内検討会議にフィードバックし、両者は関係を持ちながら検討を進めていく。

来年2月か3月にもう1回開催を予定している。

開催数が限られているため、委員の皆様からの意見等はメールやFAX、電話等により承ることとし、事務局で取りまとめて共有するようにする。

鈴木座長 <議事（1）総合戦略の進捗について、事務局から説明を求める>

事務局 <資料1～2に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

鈴木座長 最後のグラフからは、高齢化が進んでいるというのが視覚的に良くわかるという状況になっているかと思えます。

色々KPIが設定されておりまして、達成できたもの、できていないものが明らかになってきていますけれども、ただいま説明のありました総合戦略の進捗につきまし

て、質問等ございませんでしょうか。

佐林委員 地方創生関連交付金事業（資料1-2）にあります移住相談と空き家バンク、移住ワンストップ窓口の連携、これはすごく重要だと思います。平成30年度以降の事業内容も書かれておりました、交付金とかを使って色んなことを検討されて重要性は十分に認識されていると思いますが、ワンストップ窓口と空き家のマッチング件数が目標値10に対して平成29年度の実績値が0なのが少し気になりましたので、理由がどのようなものだったのかというのをいま一度しっかり検証していただいて、平成30年度以降の事業につなげていただきたいと思います。

鈴木座長 空き家の問題ですか。空き家は悩ましいところがちょっとありますね。これ、マッチングに関しては実績がないという状況ですよね。この見通しはどのようにか。

事務局 まず、行政ですので民間の不動産屋と違いまして物件をお勧めするというのは難しいので、空き家バンクに登録のある物件を紹介するのが中心になってくるかと思えます。空き家バンクへの登録が過去から見ても十数件しかなくて非常に少ない取組となっております。こちらを空き家の所有者の方に意向確認をして登録を促して、それを紹介するようにしていきたいと考えております。

現状は老朽化して危険な特定空き家への対応が多かったため、優良空き家に対する取組も進め、移住希望者にマッチングしながら利活用につなげたいと考えております。

佐林委員 周知の方はどのようにしていますか。

事務局 空き家バンクへの登録をお願いするために、年に一度、固定資産税の納税通知書に空き家バンクの案内と危険空き家の取り壊しについての助成制度の案内を同封して周知をしておりますが、それに対する反応がなかなかないという状況です。今年度も同様の形で周知しまして、問合せはあるそうですが、実際にまだ登録まで至っている物件がないというのが実情です。

今日は平成29年度までの実績の報告をしておりますけれども、今取り組んでいるのは、ただ待っているのではなく、宅建協会や不動産協会に働きかけるような動きをとろうと考えていると聞いています。

鈴木座長 小樽の空き家の数、概数というのは把握されていますか。

事務局 実態調査では2,423件となっております。

鈴木座長 こういうのは不動産業者のほう詳しい情報を持っていたりしないですかね。

事務局 結局、良好な空き家、価値のあるような空き家については不動産業者のほうに先に手を打っていて、空き家バンクに登録しなくても次の買い手がついたりするものですから、残るのはあまり良好ではない空き家になります。ですから、良好な空き家を積極的に市のバンクに登録していただけるものがないという現状となっております。

鈴木座長 ここで寿原邸というのがどう絡んでくるのでしょうか。リノベーション事業ということで寿原邸をどのように使っていくのか明確なビジョンがあるのですか。

事務局 リノベーションまちづくりという大きな絵を描きまして、寿原邸をそのシンボルとして使おうというものです。歴史的建造物ですので、観光の動線づくりに生かしたり、夏に実施しましたスウェーデンアートプロジェクトという美術展の一部でもトーク

ショーの会場として使用しまして、そのように、色々なものと絡めて活用していこうと考えているところです。

杉本委員 リノベーションというのは完了しているのですか。どこの部分までどうなのかが読み取れなかったもので。

事務局 平成29年度の事業としましては、老朽化等がありましたので、まずは屋根や基本的なところに手を入れています。また、昔の建物ということもあり、トイレ等の生活施設も老朽化していましたのでそちらも修繕しました。あと、基本設計も行いまして、今年度には居室を泊まれるように改修することになっております。
平成30年度末までで手を入れるのは完了する予定です。

鈴木座長 簡易宿泊所というのはどういう層をターゲットにしているのでしょうか。

事務局 観光客というのは違うかなと思っているので、お試し移住施設として小樽市に短期・長期に滞在してもらうものに活用できればと考えています。

鈴木座長 ただの観光客を相手にした宿泊所というのではなくて、移住込みでということですね。

高橋委員 去年も今と同じような空き家対策の問題が出ました。空き家が2,000件程度あるという話で、毎年同じ話をしても埒があかないと思います。

空き家対策をして移住に結びつけるという考えは非常にいいですが、実際に、どういう動きをしたのか。1年前から、もっと前からあるでしょうけど。

あと、既存住宅借上公営住宅については目標の30戸に対して4戸しかなかったということですけど、これは、借り上げる場合の基準が非常に厳しいですね。新しい住宅でなければ借り上げられないです。そのような実効性のない基準を持ってやるとか、何年も続けているというのは視点を変えなければならないと思います。

実際に、空き家対策で実績が0件ですけれども、どのような活動をして0件なのでしょうか。責めているわけではないです。

事務局 指標で取り上げているのは特定空き家のことでして、今年の3月に32件指定したもので、それ以前の実績がどうしてもないものです。32件の内17件は所有者が判明しましたので、改善をしてほしい旨の通知をしているところです。残りの15件は相続人がいないですとか、所有者が特定できないとか、倒産した法人であるというものでして、連絡がつかないので調査をしている段階です。17件の内2件からは返答があり、今年度は2件動きがある状況です。

そのほかに、危険な空き家に対して解体費の助成を出していますので、目標には遠いですが、今年度は実績が出てくるのではないかと考えているところです。

高橋委員 来年度にはもう少し良い数字が出てくるということですね。

事務局 そのように思っております。

高橋委員 法律が変わって、所有者が不明な場合でも解体できるようになったのではないのでしょうか。

事務局 解体できないことはないのですが、基本的に行政側で解体するとなりますと行政代執行という手続を踏まなければならないということと、税金を使って解体処分することとなります。本来ですと、行政代執行した場合は所有者に費用負担を求めることに

なるのですが、その請求先がないとなると回収ができないので慎重に行なう必要があります。全て行政で解体しなければならぬとなると、大変な金額になりますので、担当の方でも検討を重ねているということです。

鈴木座長 特定空き家の中でも、解体する意向を示している所有者はいますか。

事務局 1件だけ、長屋の半分が崩れかかっているのを残りの半分以上を所有している人が自分の部分を修繕するために解体した例はあります。それが、危険な状態が回避されたものです。

鈴木座長 それは特定空き家等で除却・解体以外で是正された件数になりますね。助成というのはいくらくらい出ますか。

事務局 上限額が30万円です。

鈴木座長 解体すると100万円はかかりますから、なかなか難しい問題がありますね。これは小樽に限らず、全国の自治体が抱えている問題だと思います。

鈴木座長 除雪の関係が増えてしまったというのは天気次第ということもありますか。

事務局 今回増えたのは排雪依頼件数になっておりまして、これについてはタイミングが遅れてしまったというのが影響して依頼件数の増加になったものと思います。

鈴木座長 ではこれは天災ではなく人災というか、連携がうまくいかなかったということですね。

事務局 今年度につきましては排雪の予算も少し上乗せしまして、改善を図ろうということです。また、主要交差点で雪山が高くなって見通しが悪くなる場所が多いものですから、昨年までは50か所指定していた主要交差点を90か所に増やすほか、3学期の始業前に通学路の排雪を終わらせる目標で今年度は進めて、苦情件数を減らそうと考えております。

鈴木座長 交通事故件数も増加していますが、それとは関連していないとは思いますがどうでしょうか。これは警察と連携を取りながら進めて行くべき問題ですよ。小樽に特徴的な事故とかあるのですか。若い年代が事故を起こしているという話しでしたが。

事務局 事故の中身までは詳しい資料がなくてお答えできないですが、除雪・排雪との因果関係についてもそこまで調査しきれていないです。

杉本委員 資料1-1の1枚目にあつたので、一覧を見てまず思ったのが、目標達成したという☆印がついているのが除雪依頼件数ですよ。生活実感として昨年は雪がかなり多かったなど感じていて、除雪依頼が減ったというよりは、リンクしている排雪に流れただけなのかなとも思います。単純に項目分けをして目標達成できた、としても意味がないのではと思いました。

事務局 確かに排雪は件数が増えておりますので。

杉本委員 来年も同じように集計するのであれば、この目標設定そのものを市民感覚に沿うよう別の指標にした方がいいのではないかと思います。

事務局 理想なのは除雪の件数も排雪の件数も減るといふ、両方が同じく減るといふのがベストで、今のように片方は減って一方は増えているといふのはいびつな形であると考えております。

しかし、この指標で3か年推移を見てきたといふ経過もありますので、30年度、31年度で本戦略が終わるといふのもありますので、ここでガラッと変えると過去からの比較もできなくなるのかなといふ思いもあります。その辺は皆さんからの御意見も踏まえながら考えていかなければならないと思っております。この後お話ししますが、次期総合戦略を策定するように国から示されておりますので、そのときにはこのままの指標を引き続き使うとは考えておりませんので、改めて検討させていただきたいと思っております。

片岡委員 除雪依頼といふのは苦情も入っていますか。私が聞いた報告では2,500件くらいだったと思っております。

事務局 苦情も含まれますが、除雪、排雪、その他と区分しております。

乾委員 排雪がされていなくてすれ違ふことができないからバスが運休するといふことがここ数年あるみたいですけど、バス会社との連携をしっかりと取れば良いと思っております。バス会社はどのくらいの道幅が必要とか十分にわかっているでしょうし。市民としては除雪の根本的な部分なのでしっかりと考えて欲しいと思っております。

事務局 ご指摘のとおり2年連続でバス路線が一時止まってしまいました。排雪がされていなくて道幅が確保できず、バスがすれ違ふないためだといふことでしたので、当然、改善しなければならないと思っております。市民満足度に影響のある部分ですのでしっかりと取り組んでいかないといけないと考えております。

鈴木座長 小樽の住みやすさは除排雪と密接に結びついているといえますね。小樽をいいところだと思っても、冬を経験したらやっぱり移ろうかなといふのが高齢になったら出てくるといふのは除排雪の部分に関係してくると思っておりますので、しっかりと整備していかなければならないと思っております。

鈴木座長 <議事(1)について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>
<議事(2)小樽商科大学との小樽市人口減少問題共同研究の結果について、事務局から説明を求める>

事務局 <資料3に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

鈴木委員 札幌との比較で公園の面積ですが、中央区と変わらずと書いていますが、これには公園予定地は入っているのでしょうか。

事務局 予定地は含まれておりません。

鈴木座長 予定地といふのは何ですか。

鈴木委員 新しく住宅地を整備しますと、一定の面積の公園を作らなければならないので、土地を市に寄付するわけです。それを公園にすればよいですが、予算の関係で空き地にしたままなのですね。私の家の隣に結構広い空き地があつて、そこの草刈をうちの夫婦とお向かいの3人で何年もやっているのですが、年々厳しくなつてきて、町内会

にお願いしようかなと考えていました。公園の面積だけでなく、予定地が含まれているなら、その整備について聞きたいなと思ったものですから。札幌とかは、町内会が請け負って市からお金をもらって草刈りしていると聞いています。

特に、公園予定地は市内に400か所くらいあると聞いていますので、面積だけではなく、整備のあり方も企画したらいかかなと。

鈴木座長 ここでいう公園は、整備された公園でしょうね。

事務局 統計書から、都市公園の面積と人口で比較したものです。

鈴木座長 市民の憩いの場ということで、草が生えている予定地というのは負担になるだけですから、それを含めて比較すると札幌とどちらが多いのかわかりませんが。また、違う基準になるのではないかと思いますね。

事務局 子育て世代の方からは、公園の整備というのは非常に多く上がっておりますので、面積だけではなく、先ほど来お話の出ている面積だけではない、札幌と小樽を比べたときに機能の面での比較があつて、そういう公園が欲しいとの声が出ているのかなと思っております。

平川委員 札幌と小樽を比較していますが、どちらかという、札幌の近隣市町村と比較した方が良いのではないのでしょうか。小樽と札幌の距離と同じような位置にある江別や北広島、恵庭のような。なぜ小樽だけが恵庭や江別に比べて人口が減っているのか、そういう比較をすることで、何か小樽のいいところが悪いところが出てくるのではないかという気がします。札幌と比較するというよりも、札幌の近隣で同じような距離にあるのに将来的な人口の減少の仕方が違うようなまちと比べてみては。

恐らく、歴史のあるまちなので色々な違いはあると思いますが、そのあたりを見ると何か打つ手が少し出てくるかなという気がします。

鈴木座長 江別に人口が抜かれましたよね。

平川委員 恐らく小樽と江別は札幌からの距離がさほど変わらないと思うので。

鈴木座長 江別と小樽はまちの性質が全く違いますよね。成り立ちも違います。完全にベッドタウンとして生まれた江別と、かなり自立したまちとして、かつては札幌のライバルであった小樽。小樽市民のプライドというものもあるのかなという気もしますがね。

人口は抜かれましたけど、江別は江別で深刻な課題を抱えているというのも聞きま

すし。
札幌市のベッドタウン化という提言ですから、そういったプライドは捨ててベッドタウンとして生きていった方がいいのではないのかということですね。確かに傾聴する価値もあるのかなという感じがしますね。そのためには、交通機関というのは本当に重要なポイントですよ。星置とほしみの差っていうのはなぜかなと思います。

子育てに関して、松並委員何かありませんか。

松並委員 先ほどお話に出ていました公園もそうですが、子供連れの方から冬に遊べる場所が少ないというのはよく出る意見でして、雪が降っても親子が安全に過ごせる遊び場がないだろうかと聞かれます。

鈴木座長 それは未就学の児童ですか。

松並委員 そうです。小さいお子さんとお母さんは家に閉じこもりがちなので、寒い季節はど

うしようかと。特に小樽に転勤になってきて、お友達もいない、話し相手もいないという方々からそのような声がかかることが多いです。

片岡委員 子育ての関係で、総連合町会の下部組織で南小樽地区連合町会というのがありました。10月6日に千葉県の流山市の市長を招いたセミナーを開催しました。話しを聞きに行きましたが、14万だった人口を19万にしたということで、何をしたかというところ、子育てということです。流山市は「母になるなら、流山市」というキャッチコピーで東京のベッドタウンになっています。子育てをしながら仕事は東京でという方も増えたということで、大変勉強になって、やっぱり子育てが一番大切なのかなと思いました。

これまで、この会議の中でも企業をもつてくるとか専門の方からお話しを聞きましたが、すぐできることと、中期・長期的なものに区別したら、小樽市は財政難ということもありますので、流山市のものがそのまま小樽市で実行できるかといえそうです。ではないですけど、子育てについては実効性があるのではないかなと思いました。

鈴木座長 高齢化が進んでいるのが、そこに立ち足はかかる大きな問題なんじゃないかと思いませんけれども。

永田委員 今の話ですけど、流山市でお母さんになろうというシステムを作ったのですね。お金出します、補助しますよ、子どもについては全部市で預かりますというように。「母になるなら、流山市」というシステムを作ったそうです。若いお母さんが、どうせならそこに住もうというシステムを作ったということです。

全国的にも若い女性にアンケートとりますと、子どもは持ちたいようです。ただ、結婚できません。なぜかというところ子どもをたくさん持つとお金がかかるのです。そのためにはお母さんは働かないとならない。その辺を市で何歳くらいまでは見ますよというシステムを作ったら、若いお母さんが増えて人口が増える。

また、公園を、子どもの頃ここに遊んだという思い出の場所を作れば、小樽から出て行ってもまた帰ってきますよ。親がいると。帰ってきたときに公園でこうやって遊んだって思い出。ただ公園を作って草がぼうぼうというのでは、公園があっても意味ないなど。子どもに思い出を作ってあげるものはどうなのかなって思います。

小樽にはやっぱりすばらしいものがあります。例えば歴史的建物について、子どもが大きくなってから職場の同僚に説明できるくらいに、学校教育で教えていかないとならないと思います。残念ながら大学くらいになったらやれますけれども、小中高校ではそういった余裕が、特に今の小中学校ではありません。

子どもが小さい時に小樽の歴史、建物がこうやってできたということを教えていて欲しいなと思いますし、そういうのがやっぱり、生まれたところに帰ってくることに繋がって、色々な楽しみを語れるというまちにしたらすごく良いかなと思っています。

高橋委員 永田さんのいうとおりですね。帯広の方にある上士幌町って人口5,000人くらいのまちですけど、ふるさと納税で30億円くらい集まったらしいです。それを子育て支援に使ったところ、人口が減ってきていたのが15名とか20名で増えるようになったそうです。子育て支援は本当に緊急の課題だと思いますね。

それと同時に勤めるところも非常に大切だなと思います。

鈴木座長 小樽のすばらしさというのは重々感じるころですね。大学では小樽学という科目があって小樽について半年間勉強するというのがありますけれども小中学校ですべてではないですかね。生徒を小樽のまちを連れて回って案内するということはすぐできることではないかと思えますけれども。どうでしょうかね。

鈴木座長 <議事（２）について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>

鈴木座長 <議事（３）次期総合戦略について、事務局から説明を求める>

事務局 <資料４に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

鈴木座長 ５か年の戦略ですね。今の総合戦略は、策定すると交付金があったと思いますが、今回はどうですか。

事務局 前は平成２７年１０月までに策定することを条件として１,０００万円交付されましたが、今回はなさそうだと聞いております。

樋口委員 今のところ、明確な情報は入ってきておりません。

事務局 ですので、自前でアンケートなどを取って、こういった形になるかはわかりませんが、骨子などをつくりながら、この会議にお示しをして、ご議論をいただきながら作っていく格好になるかと思えます。

鈴木座長 一番下にある、地方創生３本の矢というのは、政府が最近打ち出してきたものですか。

事務局 地方創生に取り組み始めたときからあるもので、国はこの３本の矢で地方の地方創生を後押しするものです。

鈴木座長 これは実際、機能しているのでしょうか。

事務局 RESASというのは分析のシステムで、市町村の情報を結構細かく見ることができる仕組みです。

鈴木座長 これに小樽が該当しているのですか。

事務局 国のほうで市町村の情報を一元集約して、インターネットのサイトで、産業構造や人口推移を見ることができるものです。地方創生カレッジはeラーニング、地方創生人材支援制度は、小樽市は要件に該当しないですが、前は人口５万人以下、今は原則１０万人以下のまちに、支援員を派遣していただけるものです。

鈴木座長 その支援員というのは、参与とかとして派遣されるものですか。

事務局 自治体に入っていて、地方創生に関する仕事をお手伝いいただく方になります。

鈴木座長 商大でも、研究員を派遣したことがありますね。

事務局 あとは、財政支援ということで、交付金事業の説明のときにもお話しましたが、地方創生関連交付金としまして、条件が色々ありますけれど、計画をきちんとつくって地方が頑張るのであれば、財政的にバックアップするというもので、企業版のふるさと納税などのメニューが用意されています。

鈴木座長 企業版ですか。これは小樽で行われているのですか。

事務局 対応できておりません。個人の方のふるさと納税ですと寄附を受けるだけでいいのですが、企業版のふるさと納税については、小樽市の方で、こういった事業に活用したいということで、国に地域再生計画の認定を受けて、その事業に対して企業から寄附をいただくというものなので、個人の方のふるさと納税とは制度が違うものになります。単に企業から寄附をいただければいいというものではありません。今回、このルールも緩和されると聞いておりますが、詳細はまだわかっておりません。

鈴木座長 ふるさと納税は、あの返戻品レースに小樽は参加しなかったですね、ほとんど。

事務局 返戻の割合は3割を超えていないですが、返戻品の拡充は行っております。

鈴木座長 どのような拡充ですか。

事務局 昔は博物館などのフリーパス程度しかお渡ししていなかったですが、地場産品などをお送りするようになりました。

鈴木座長 小樽は、そういったものは豊富にありますよね。他の地域には負けないと思います。

事務局 地場産品でなければならないことになりましたので、豊富にあると思います。

鈴木座長 それであれば増えてきているということですか。

事務局 年間1億2千万円程度あり、以前に比べると桁は上がったと思います。

鈴木座長 それでは次期総合戦略、ほんとに概略という形ですが、御意見、御質問などありますか。

佐林委員 今ほど、32年度の総合戦略の見直しという話がありましたが、できれば早い段階で検討していただきたいことがあります。先ほど来、子育てという話が出ています。そして、冒頭の市長挨拶でも子育て世代の重要性について話されていきました。それから、今ある総合戦略の14ページと24ページの施策方向性の2番でも、子育て世代が安心して働くことができる環境づくりというものがあります。また、今説明のありました資料4の、まち・ひと・しごと創生基本方針2018の2.(2)でも、女性高齢者等の活躍による新規就業者の掘り起こしということがあります。

今、小樽は生産年齢人口が51%くらい、これは10万人以上の都市では最低の部分です。この生産年齢人口が少ないということは、街の活力、労働生産性が低下するということです。労働生産性の低下は、所得や税収の減少につながります。また、社会保障制度の維持が困難になることにつながると思います。

企業においては今、人手不足が深刻な問題になっており、これについてはすぐに解決することは難しいと思います。一方で、働く意欲を持っている女性や高齢者の方々が多くいます。女性については、働く意欲を持っていながらも家事や育児、体力的な問題など、色々な理由から、働かないのではなく、働けない方もいます。各々のライフステージに応じた就業条件の創出、こういう取組が、就労意欲を持つ女性や高齢者が働きやすい環境、これを整備することが人材確保の緩和にもつながるのではないかと思います。

高齢者や女性の就業機会の創出、促進のため、高齢者や女性の就業にかかる支援制度を創設し、こうした方々の就労情報を提供する総合相談窓口を設置してはいかがかと思えます。

今、厚生労働省などでは、そのような働く女性のための助成金の交付ですとか、ライフステージに応じた支援というものがなされておりますので、この総合戦略の中でも早急に検討していただければと思っております。

鈴木座長 これは、ハローワークのほうでは、そういった窓口というのはあるのでしょうか。

前田委員 一般の窓口には併設ですが、マザーズコーナーを置きまして、子育てしながら働きたいお母さんに、色々な就職支援をしております。そういった方にマッチした求人を開拓したり、時間の制約があるお母さんも多いので、求人の要件を変えてもらったりして、少しでも意向に沿えるような求人をもたらしたりしています。あと、セミナーを開いたりもしています。

鈴木座長 最近、問合せはいかがでしょうか。増えてきていますか。

前田委員 過去から結構、求職者の方はいらっしゃっています。

鈴木座長 やはりマッチングが問題でしょうか。

前田委員 そうですね、やはり子育てをしながらというのが難しいのかと。しかし、最近是人手不足ということもあり、理解が深まった会社さんも増えてきていますので、割と就職促進には繋がっていると思います。

鈴木座長 市としても、女性と高齢者の就職問題というのは考えているのではないかと思います。

事務局 資料4の右側、2(2)で、先ほどご紹介いただきましたけれど、女性高齢者の就業について、地方創生関連交付金で対応できるメニューがあります。詳細はまだ見えていませんが、就職された方に対して、30万円から100万円程度の支援するメニューが示されています。来週、この制度の説明会があるので、小樽市でどう対応できるのかどうか、検討をしなければならないと考えております。

鈴木座長 そこに、保育制度の充実とかも関係してくるのでしょうか。

佐林委員 ライフステージに合わせたというのが非常に重要なのではないかなと思います。

鈴木座長 流山市とかは、保育料の無料化とかが進んでいるのですね。

片岡委員 ぱっと答えられないですが、駅に子どもの預り所があって、市がバスを提供して、子どもが通うべき保育所まで送迎しているようです。

鈴木座長 そうですか。その辺も考えていかなければいけないのかもしれないかもしれませんね。

片岡委員 駅は街の顔だと思います。小樽駅について皆さん、どう考えているかわかりませんが、今、駅前の再開発ということで色々やっていますが、流山市では駅に緑を植えて、若いお母さんたちに、すごく納得していただけるように開発したと聞いています。

永田委員 すごいのは保育所。駅まで子どもを連れてくれば、保育所まで連れていくシステムを市が作ったというのがですね。とても考えられないですよ。

鈴木座長 駅に保育所ですか。

永田委員 駅にも作ってしまった。そこでお母さんが帰ってくるまで預かっているのです。そこまで小樽にやってくれとは言えないですけども。そこまでやって集めたという。流山市は10年間でそのような歩みをしたそうです。

鈴木座長 小樽の駅って、駅前の再開発はいつされたものでしょうかね。

片岡委員 12月1日に駅前再開発のシンポジウムをやると聞いています。その関係で地域にアンケートを取りましたが、商大の天津先生のゼミでまとめて、それを発表すると聞いています。

鈴木座長 天津先生は都市計画専門ですからね。駅の目の前の歩道橋は撤去しましたけれどね、見栄えが悪いということで。見晴らしもよくなりました。そういった点を含めて、将来を考えていかなければならないでしょうね。

鈴木座長 <議事(3)について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>
<議事(4)意見交換として、今後の人口対策、地方創生において小樽市にとって特に重要と考えることについて、各委員から順に意見を求める>

中村委員 色々、小樽には良い所もあれば悪い所もあると、なんとなくわかったような気がします。札幌が隣町ということで、札幌と色々競う、比較するというのもあると思いますが、あまり札幌と比較してしまうと、小樽の良さというものが出にくくなってしまおうと思うので、札幌とは全く違うような視点で見えていくところが必要なのかなと思います。先ほどの商大との共同研究の提言の中で、札幌のベッドタウン化と言っていましたけど、ぱっと見たときに、小樽のどこに置くのかなというビジョン的なものがちょっとわからなかったの、その辺をちょっとはっきりさせた形で進めていく必要があるのかなと感じたところです。

樋口委員 北海道庁は広域自治体ということになるので、その観点から少しお話をさせていただけます。人口減少への対策を見た場合、ものすごく簡単にシンプルにすると、外から人を連れてくる、中から人を出さない、出生率を上げる、この3つが人口減少対策となります。そのなかで、先ほども子育ての話が議論として多く出ていましたが、例えば、外から人を連れてくる、中から人を出さないことを考えた場合に、小樽に住むメリットって一体何かということ、もう一度皆さんで振り返るのが一番大事なのかなと思います。先ほどおっしゃっていた、札幌と競うのではなく、札幌にない小樽のメリット、小樽に住めば良いというところは何だろうと、この会議を通じて改めて見つめ直すことが非常に大事なのかなと思いました。

これは、まさしく移住の話につながりますけど、北海道の中で、ちょっと暮らしのナンバー1は釧路市です。2位が浦河町ですけど、何故釧路市にちょっと暮らしという体験移住で多くの人 coming いるのか、浦河町という小さな町が、どうして全道2位になるのかというところが、非常に大事なところなのかなと思っております。私は両方に住んだことがありますので、なんとなくわかりますが、両方ともとても人懐っこいです。浦河町は特に小さな町なので、近所の人達がイカとか米とかを持ってきて、これを食べなさいとくれるような町なのです。そういったところは、小樽市の皆さんにもあると思いますので、例えばそういうところとかを見つめ直すということが必要になってくるのかなと思います。

ちょっと感想めいた話になってしまいましたが、あともう1つ。人口減少という話の中で、今までは小樽市が単独ですべてのことをやれていた時代だったと思いますが、これから先、小樽市単独で物事をやっていくのはなかなか難しい時代になってきています。特に観光の部分については、北しりべしとか新幹線開業を見据えた後志全体、札幌圏を含めた大きな観光圏のなかで物事を見ていかなくてはいけない時代にもう来てしまっているということですので、次の戦略の中では、地域連携と言う部分も見据えて考えた方がいいのではないかなと、そういうふう考えているところです。

前田委員 今のお話しにもありましたとおり、小樽の強み、イメージというのはやはり、観光ではないかなと思います。そういう意味では、後志のニセコ地区と提携した広域的な観光や、産業の育成・拡大といった、やはり経済が非常に大事だと思います。今後、新幹線、高速道路といった材料もありますし、強みを十分に生かして。また、商大との共同研究にもありましたとおり、小樽の所得水準が平均よりも低いというのがありますので、少しでも賃金を高くして、処遇を改善して、働き方改革と言っておりますけれど、流出・減少している若者をつなぎとめて、活性化につなげるのも大事だと思いますし、子育て支援は、皆さんおっしゃったとおり大切だと思います。子育て支援で人口が増えた街でも、他の地域、街からの転入で増えたという要素もあると思いますので、そういったことを知ると同時にアピールしていくということが大切ではないかと感じました。

高橋委員 街を元気にするには、ひとつは中小企業が元気になるということがあると思います。ひとつは子育て環境を充実するという。子育て環境を充実するというはどうかということ、若い人が住まなければなりません。若い人の働く場所がなければ話にならないので、まず働く場所を確保しなければなりません。小樽の主要産業は観光で、そこで働く人の給料が低いと、商大のレポートで出ていますね。だからといって給料を上げればよいかということ、今度は中小企業、経営者が困ります。ですからその辺は、市との施策の中でうまく組み合わせて、小樽市の給料全体を上げるような仕組みを考えて、そこに若者が集まって子育てをするというような形を、長期の視点で考えないといけないと思います。いますぐ子育てにお金を投じたからといって増えるかといったらそうではないと思います。基本的には働く場所、生活する場所というのがきっちりないとならないと考えております。

小倉委員 かなり重複することもあります、住むことにメリットがあるということを見せなければならぬということが一番重要だと思います。そのためには、幅広い人をターゲットにしてもそれぞれの世代でメリットは違いますので、絞るべきだと思います。先ほど来の議論からいいますと、子育て世代をターゲットにすべきだと思います。子育て世代の方々が、ここで実際に住んだときに生活を考えると、やはり仕事というものがかなり重要になると思います。

小樽では中小企業が99.9%なので、その活力を上げることが必要になると思います。我々も中小企業向けの金融機関なので、そこが専門性としては高いですが、小樽に赴任してから300~400くらい決算を見ています。100社ほどは自分で会ったりもしていますが、ビジネスモデルが昔ながらの方が多いというのが課題かと思います。なぜ昔ながらになるのかということ、後継者がいない、変える努力をしないというのを非常に感じております。突き詰めていくと事業承継の問題というのが影響しているのかなと思います。その辺については、我々が支援していきたいと思っております。

織田委員 (都合により、中途退席されました。)

佐林委員 小樽駅前の再開発とか、新幹線の新小樽駅、それから観光拠点ですとか、昔からある港の整備、こういう社会資本の整備に絡めて相乗効果を生むようなものを総合戦略の中に組み込んでいった方がいいのではないかと考えております。

鈴木委員 昨日ちょっと調べましたら、小樽に住んで札幌に通勤する人よりも、札幌に住んで小樽に通勤する人が多いというデータがありました。皆さんご存知かもしれませんが、平成22年の国勢調査では小樽に住んで札幌に通勤する人が7,139人でした。それから札幌に住んで小樽に通勤する人が8,276人ということです。札幌に住んで小樽に通っている人のほうが小樽に住んで札幌に通っている人より多いということです。

江別は完全なベッドタウンで、江別から札幌に通っているのは約2万1千人、札幌から江別に行っている人が7,135人ですから。小樽と同じような街というのは、苫小牧、千歳、石狩です。この辺のところを分析すると、なにかヒントが無いかなということ考えた次第です。

乾 委員 普通に暮らしている庶民としては、市がこんなに沢山、いろんな事業をやっているとは普段目にしないので、今回この会議に参加することになって資料をいただいて、沢山やっていることを知りました。普通に暮らしていると、暮らしやすいことが第一で、あと人口の問題で言うと若い世代というのは私も思っているところですけど、どの世代にも優しい、そういう感覚、庶民の感覚といいますかね、申し訳ないですけど市の職員とは感覚が少し違うような感じがしてしまいます。ですので、普通に暮らしている感覚、ちょっとこうして欲しいな、というのも取り入れて、もっと活気ある小樽を作っていきたいなと、そのように思っています。

杉本委員 今日話を聞いていて、流山の話、大変参考になりました。子育ての問題も非常に大きいものだと思っています。2018の主なポイントの中にもありますけれど、外国人材の活用なども今、国会などで議論されています。そういったものを含めながら、迅速に計画を作らなくてはならないですね。既にある程度論点が出ているのですから、できるところからまずは実行していったほうが良いと思いました。

片岡委員 先ほど樋口さんからお話しあって、今の現実、直近のことを考えると、小樽市に中小企業の会社を持ってくるのは考えられないので、小樽から出さないというのが一番だと、個人的には思います。先ほど、流山市の話をしていましたが、講演の最後に流山市長に「小樽はどうしたらいいですか」と聞いたら、弱いところを伸ばすより、強いところを伸ばした方がよいということです。それは何ですかと聞いたら、観光ですと。ただ、観光といっても、今まで通りの観光のやり方では、ハテナかなと言っていたこととお知らせします。

永田委員 人口をどうして増やしていくのかについては、こういった話し合いを持つことは非常に素晴らしいのかなと思います。大人として、私はお金を出せませんが、子供にふるさとを作るっていう、これ大事なことだなと。小樽から出て行っても、大人になって小樽のよさをずっと知っている、そういった宝物をつくるのが大事なかなと思います。

私は全国、子どもというのは一緒だと思っています。小樽の子どもだけがよければいいという考えはありません。北海道の子ども全部が幸せになって、全国も。だけど、そこで何をやるか。小樽にいてよかったなあということを、小さいときにいかに植えつけるか。人口は減っても心は残っている、そういうのがいいのかなあと思っています。

松並委員 小樽以外のところに出かけて行った時に出身はどこですかと聞かれて、「小樽です」と答えると、必ずといっていいほど「良いね」とうらやましがられます。その大好きな街の人口が年々減っているというのは、すごく寂しいことですし、何とかして歯止めをかけたいと思います。今日の会議で、子育て支援の意見が多く出ました。では実際にどこから始めたらいいいのか、具体的な案が出てそれを1つでも実行に移していけたらいいなと思いました。

平川委員 広い問題なので様々な課題やテーマが出てくると思いますが、それは全部リンクしていると思います。全てがうまく好循環で回ればきっと良くなると思います。課題の優先順位をしっかりと付けて、強み弱みをよく理解をしたうえで、優先順位を付けて総合戦略に具体的に載せて、中長期的にやるべきことをしっかりと実行に早く移していく

ことが大事なのかなと思います。

鈴木座長 ありがとうございました。

最後に、その他として次回の日程についてです。来年2月頃を目途に開催したいと思います。近くなりましたら、事務局から日程調整の連絡がありますのでよろしくお願ひします。

本日お配りしました資料につきましては、お持ち帰りいただきまして、改めてご意見等がありましたら、遠慮なく事務局にお寄せいただければと思います。

以上を持ちまして平成30年度第1回小樽市人口対策会議を終了いたします。本日は長時間にわたり大変お疲れ様でした。